

Istanbul Weekly vol.3-no.27

イスタンブール ウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2014年8月22日（金）

— 今週のポイント —

- 政治：ダーヴトオール外相、新首相に決定。
独諜報機関によるトルコ盗聴か。
- 軍事：ジャンダルマ大尉、PKK から銃撃され死亡。
防衛産業庁、トルコ製戦闘機は野心的すぎる。
- 経済：日本とトルコで13億ドル相当の肥料プラント、建設開始。
直接投資28%増加。
- 治安：「イスラム国」が日本人を人質に。
政府、PKK 共に和平プロセスの結実を示唆。
- 社会：90リラのラク、49.3リラが税金。
世界で最も高いトルコのガソリンの58%強が税金。

政治

【8月の内政】

●ダーヴトオール外相、新首相に決定



(ダーヴトオール外相(左)、エルドアン首相(右))



(ダーヴトオール外相)

ダーヴトオール外相の強力な支持者には、AKP のヤルチュン・アクドアン議員（首相顧問）率いる若い世代の政治家グループが含まれている。エルドアン首相がダーヴトオール外相を新たな首相に決定したことで、AKP 党員間の若い世代とシニア世代間の闘争が恐らく終わったことを示しているのだろう。

ダーヴトオール外相は党内の緊張を引き起こすことなく、新たな幹部との関係や党内マネジメントを上手く行う能力があると見られている。エルドアン首相は、特に、少なくとも（エルドアン首相が次期大統領に就任した後の1期目が終わる）2019年まで同一のAKP 党首及び首相ととも

にやっていきたいと考えている。また、ダーヴトオール外相の学術的背景がAKP の保守派・ナショナリスト的な論理と政策の構築貢献してきたということもあるのだろう。（8月22日付HDN紙3面）

●新首相は8月21日に発表

エルドアン首相は、AKP 設立13周年レセプションにおいて、「我々の目標は憲法改正を行うための議員グループ（367人）を持つこと。それが駄目なら、330議席を獲得することで国民投票実施に持ちこむことを目標としている。」、（誰が首相に就任するかとの記者の質問に対して）「21日（木）に党中央執行委員会を開催し首相選定について再び協議予定。その委員会後にはもうAKP（党首としての）共通の名前を発表することになる。」旨述べた。（8月15日付T紙9面）

●新首相、外相または元運輸大臣か

21日に開催予定のAKP 党中央執行委員会において、新たな首相としてダーヴトオール外相またはユルドゥルム元運輸大臣の就任可能性について議論される見込み。（8月21日付HT紙16面）

●ギュル大統領、「外相を政界で引っ張ったのは私」

19日、ギュル大統領は二回目の離任レセプションを開催し、新たな首相候補としてダーヴトオール外相の名を上げ、同外相を政界に引っ張ったのはギュル大統領自身であり、同外相は自分の後継世代の重要人物の一人である旨発言。（8月20日付HT紙17面）

●AKPの動き

・8月11日（月）：AKP 中央決定運営委員会が開催され、エルドアン首相は次期AKP 党首を選ぶための無記名アンケートを実施。特別評議会の開催を決定。

・8月27日（水）：AKP 党首を選ぶための党の特別評議会の開催予定。

●今後の大統領関連日程

・8月28日（木）：現大統領の任期終了日

(8月12日付HT紙16面)

・8月28日に開催予定の大統領就任記念式典に関して、オバマ米大統領やプーチン露大統領ら世界各国元首へ招待状が送付された。米国及びロシアは大統領代理出席の見込み。中央アジア諸国やカタール、湾岸諸国からは国家元首級の出席となる予定。(8月20日付HT紙16面)

●国会、休会へ

12日に国会は8月24日まで開会する旨決定していたが、13日夜にパッケージ法案第5部まで審議した後、休会が決定された。これにより、何百万人という人々が期待していた法案第6部以降の審議は10月まで延期された。(8月14日付NTVMSNBCインターネット版)

●CHPの動き

(1)9月5日(金)～6日(土): CHPの特別召集総会の開催予定。党首選挙及び党規則の変更が議題に挙がる予定。17日、クルチダルオール党首は「特別召集総会を開催する意味は、(党員の)一掃ではなく、一体化・拡大のための会議である。トルコの見本となるような会議を行う。」旨述べた。(8月18日付HT紙17面)

(2)19日、全国のCHP県支部長78名が中部ネヴシェヒル県にて集し7時間に及ぶ議論の後、9月5～6日に開催予定の特別召集総会における党首選挙の際には、クルチダルオール現党首を支持することで一致した旨発表。ヤロヴァ県、ドゥズジェ県、ウスパルタ県の各県支部長は欠席したため現党首への支持は表明していない。会合後、イスタンブール県支部のサルジュ県支部長は記者会見にて78名の支部長を代表して、「特別召集総会の後、CHPはより強大になると考えている。出席者全員がクルチダルオール党首による自由、民主主義、普遍的な法律、基本的人権、公共の基本的価値観のための闘争を支持する」旨述べた。(8月20日付TZ紙3面)

(3)【参考論調】CHP党首のラスト・チェンジ

9月初旬の特別召集総会はクルチダルオール党首にとって避けることのできない動きであり、これは彼自身と新たなCHPのためである。政治領域がかなり狭まり、法の支配が崩壊し、民主主義的慣習が破壊されている時代にあつて、社会の異なる全ての層を包み込めるCHPへの需要がある。これにより、CHPは政治的権利及び自由の観点から政治的左派へと向かうこととなり、トルコの正常化へとつながる。CHPが右派にまで門戸を開いていることが問題だと考えられている国において、社会の異なる層と協力しようとするCHPが重要となる。クルチダルオール党首にとっては、今、イデオロギーの観点でCHPを再生させ、党をより左派・社会民主主義に向けさせる最後のチャンスである。クルチダルオール党首は、(異なる社会層をまとめていく)統合的な話を展開していくことで、この最後のチャンスを生かすことが出来るだろう。(8月20日付TZ紙14面、Murat Aksoy氏)

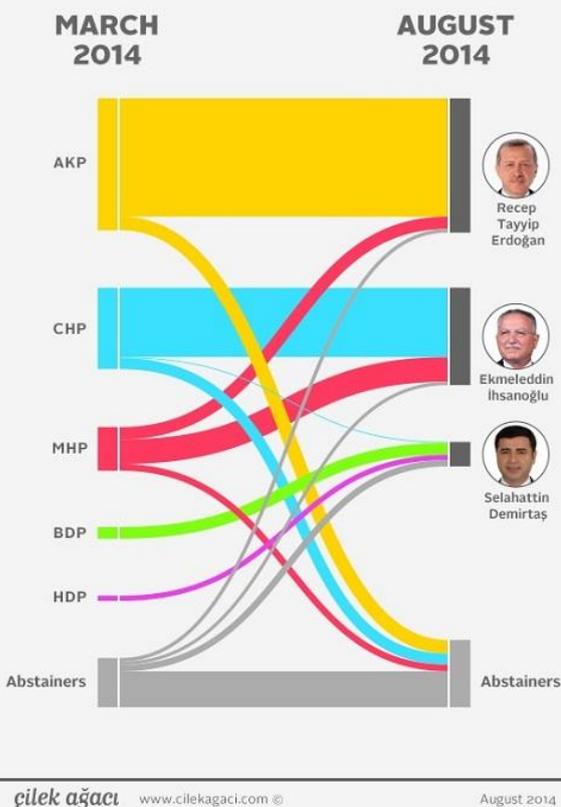
●大統領選挙：投票者行動の比較分析図

3月末の地方選挙及び8月の大統領選挙の際の投票者行動の比較分析図。

(8月19日付HDN紙3面)

VOTE SHIFTS IN 2014 TURKISH PRESIDENTIAL ELECTION

The diagram shows the predicted vote shifts between the March 2014 local elections and the August 2014 presidential election. The thicknesses of the lines are proportional to the number of electors that shift from one election to the other. The heights of the vertical rectangles at the two ends represent the number of votes each party/candidate received in the elections.



【トルコ・ドイツ関係】

●独諜報機関によるトルコ盗聴？

(1)アンカラの政治家等関係者らが5年以上にわたって独政府により盗聴されていたとの主張に関し、トルコ外務省関係者は、「友好国及び同盟国間における盗聴は容認出来ない。同主張については調査中であり、正しいと判明するのであればスキャンダルであり、独政府からの説明を待ちたい。」(8月18日付HT紙16面)

(2)独諜報機関(BND)による対トルコ盗聴が明るみに出た後、アンカラの駐トルコ・独大使 Pohl氏はトルコ外務省に召喚され、口頭により「(報道されている)事実の中で少しでも正確な事実があるのであれば、ドイツ側による説明が必要な状況である。」旨伝えられたとされる。(8月19日付HT紙19面)

(3)メルケル独首相は、NATO加盟国のトルコに対する盗聴に関する記者らの質問に対して、「諜報活動に関するコメントは出来ない。」旨述べた。(8月19日付HT紙19面)

●誰が誰を盗聴しているのか？

米国 NSA: 米国内のトルコ、仏、ギリシャ、独、伊等の大使館・外交代表部。EU代表部。

英国: トルコ、独。

独: トルコ、ロシア。

ロシア: 米国。(8月19日付HT紙19面)

●独機、北イラクへ人道支援物資

トルコ外務省関係者は、8月15～18日に北イラクのエルビル行きの独航空機8機に対して、独政府によるトルコ盗聴事件に絡み、トルコのインジリリック空軍基地への発着陸

許可が付与されなかったとする報道を否定して、同基地へのドイツ機には発着陸許可は出されたと発言。(8月22日付HT紙15面)

【その他】

●外相、「首相」の呼び掛け

ダーヴトオール外相、休暇を過ごした東部アルトゥヴィン県シャヴシャット市から県中心部を訪問した際に、市民から大歓迎を受けた。市民の中には、「(注：同外相が首相に就任するとの噂がある)我らの首相、大歓迎」と呼び掛ける人々もいた。(8月19日付H紙20面)

●新首相府のカーペット、マニサ県の絨毯業者が生産

アンカラのアタテュルク森林農場に建設中の新首相府棟に敷かれる絨毯は、マニサ県デミルジ市において1953年以降、手織り及び機械織りの絨毯を生産している会社により織られた。同会社関係者によると、新首相府建物のために4000㎡の絨毯が生産された。(8月18日付HT紙16面)

【トルコから見たシリア情勢】

●西部イズミルでシリア人労働者に対する抗議デモ

東部ガーズィアンテップにおいてシリア人避難民に対する事件が発生した後、西部イズミルにおいては同市ボルノヴァ地区の靴工場団地の労働者ら約200名が、多くのシリア人が安い労働力として雇用されている状況に対して、「雇用主は安い労働力を愛する」、「奴隷のような労働と奴隷のような生活にNO」、「靴の労働者は奴隷ではない」等のプラカードを掲げて、シリア人労働者の雇用に対して抗議。(8月15日付T紙7面)

●東部キリス県の人口、半分はシリア人に

シリア人避難民の流入により、シリア国境の東部キリス県の人口は二倍となり、家賃が高等中。このため同県内で建設ラッシュとなっており、あるアパートの家賃200リラは600リラまで上昇。(8月20日付HT紙18面)

【クルド問題・和平交渉プロセス】

●MIT長官、オジャランと面会

アタライ副首相は、ハカン・フィダンMIT長官がオジャランと面会し、和平プロセスに関し協議した模様であり、今後は、和平プロセスを促進するため、他の公的機関等もオジャラン首領に面会することが可能と述べた。(8月20日付C紙6面)

【これまでの和平プロセスの流れ】

2012年12月28日、エルドアン首領はオジャランとの面会を再開したと発表。(2013年3月19日付H紙インターネット版) 第20回訪問:8月15日(金)

HDP議員3名(ブルダシ、バルカン、ワゲル)

軍事

【PKK関連】

●PKKによる地雷爆発

8月18日(記事に日付の記載なし)、ヴァン県ギュルプナル村において、軍警察(ジャンダルマ)が巡回中、PKKによって設置されたと思われる地雷が爆発したが負傷者はなかった。(8月19日付C紙7面)

●PKKによる重機への放火

8月19日、トゥンジェリ県ペムベルクダム工事に使用されている重機に対し、PKK戦闘員が放火。(8月20日付C紙6面)

●ジャンダルマ大尉PKKに銃撃され死亡

8月20日午前0時頃、ヴァン県のトルコ・イラン国境において、監視任務にあっていたジャンダルマ(軍警察)のエムレ大尉(23歳)が、ジャンダルマに発見されたPKK戦闘員から銃撃され死亡した。(8月21日付C紙7面)

●PKK創設者の銅像撤去に対する南東部各地の抗議

ジャンダルマがPKK創設者の銅像を撤去したことに伴い、ジャンダルマを標的として各地で過激な抗議行動が行われている。

(1)ディヤルバクル県コジャキョイ市において、ジャンダルマと警察の住居がロケット弾により攻撃される。

(2)トゥンジェリ県ホザットにおいて、PKK戦闘員がジャンダルマ基地に対し、ライフルにより銃撃。

(3)ディヤルバクル県リジェ・アバル地区において、迫撃砲4発が着弾したが負傷者は発生しなかった。

(4)ディヤルバクル県とビンギョル県を結ぶ高速道路経路上、アシャルチェルブキュ村の橋が爆破され、通行不能となる。

(5)ハッキヤリ県ハッキヤリ町ハッキヤリ高校において、アタテュルク銅像が放火される。

(6)バトマン県の高校において、アタテュルク銅像が放火される。

(7)マルディン県において、PKK構成員数名が抗議デモを行い、ジャンダルマと衝突、負傷者はなかった。(8月21日付C紙7面)

●PKKからの投降者

シュルナック県庁は、2013年3月21日から2014年8月20日にかけて、シュルナック県の北イラク国境から投降するPKK戦闘員数は計273名と発表。(8月21日付C紙8面)

【一般】

●イラクのトルクメニスタン人武器を要求

イラクのトルクメニスタン人が、「イスラム国(IS)」の台頭を受け、自分達の領域を守るため西側諸国に対し武器供与を要請している模様。(8月18日付HD紙1面)

●防衛産業庁、トルコ製戦闘機は野心的すぎる

関係筋によると、防衛産業庁は、トルコ製戦闘機の開発について再評価し、野心的すぎると結論づけた。エルドアン首領は、共和国100周年を迎える2023年には、トルコ製戦闘機が初飛行するだろうと発言していたが、同首領にもトルコ製戦闘機は現時点で潜在的に実現不可能と伝えられている模様。(8月20日付HD紙1面)

経済

●元中央銀行総裁、金利を巡る中央銀行への批判を非難

ユルマズ元中央銀行総裁は、中央銀行を批判する者は常に存在するが、彼らの思うように金利を弄んだ場合、3ヵ月以内に経済がどのようなになるのか分かるであろうと述べ、1994年、中央銀行の低金利政策の失敗により、ドルに対してリラが50%以上切り下げられ、金利が急上昇し、インフレ率が3桁台に達した当時を想起し、中央銀行の金利政策に対する批判を非難。

●経常赤字の回復が減速

14日、中央銀行の発表によると、本年6月の経常収支は、40億9000万ドルの赤字と、対前年同期比14.5%以上の縮小ではあるが、37億ドルの赤字と見込んでいた市場予想を超えた。本年上半期の累計経常赤字額は、対前年同期と比べ129億ドル減の241億ドル。経常赤字減少の主な要因は、貿易赤字の縮小(112億ドル減の293億ドル)。

●クルド産石油

(1) クルド産石油がクロアチアに

16日、クロアチアの Jutarnji List daily は、8万立方メートルのクルド産石油を積載したタンカーが、クロアチアのアドリア海の港に到着し、17日に陸揚げされると報じた。関係者筋は、ハンガリーの石油・ガス会社 MOL によって取引された石油であるとしているが、同社はコメントを控えている。(8月18日付HD紙11面)

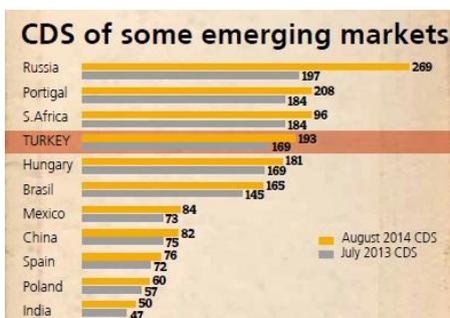
(2) トルコ経由によるクルド産石油が650万バレルに到達18日、ユルドゥズ天然資源・エネルギー大臣は、トルコ経由で第三国に輸出されたクルド産石油が650万バレルに達したと述べた。また、同大臣は、クルド自治区から、これまでに合計780万バレルの石油が輸出されているとした。(8月19日付HD紙10面)

●トルコの信用格付け

2014年現在の各信用格付け会社によるトルコの格付け及びCDS(クレジット・デフォルト・スワップ)は以下のとおり。(8月18日付HD紙10面)

- ・S&P: BB+(negative)
- ・ムーディーズ: Baa3(negative)
- ・フィッチ: BBB-(stable)

	Standard & Poor's	Moody's	Fitch
2007	BB-(stable)	Ba3(stable)	BB-(stable)
03.04.2008	BB-(negative)		
31.07.2008	BB-(stable)		
05.10.2008			
11.13.2008	BB-(negative)		
2008	BB-(negative)	Ba3(stable)	BB-(stable)
17.09.2009	BB-(stable)		Ba3(positive)
18.09.2009			BB+(stable)
03.12.2009			
2009	B-(stable)	Ba3(positive)	BB+(stable)
08.01.2010		Ba2(stable)	
01.02.2010			
19.02.2010	BB(positive)		
05.10.2010		Ba2(positive)	
24.11.2010			BB+(positive)
2010	BB(positive)	Ba2(positive)	BB+(positive)
25.11.2011			BB+(stable)
2011	BB(positive)	Ba2(positive)	BB+(stable)
05.01.2012			
01.05.2012	BB(stable)		
20.06.2012		Ba1(positive)	
20.09.2012			
05.11.2012			BBB(stable)
2012	BB(stable)	Ba1(positive)	BBB-(stable)
27.03.2013	BB+(stable)		
16.05.2013		Baa3(stable)	
23.05.2013			
2013	BB+(stable)	Baa3(stable)	BBB-(stable)
07.02.2014	BB+(negative)		
21.02.2014			
11.04.2014		Baa3(negative)	
2014	BB+(stable)	Baa3(stable)	BBB-(stable)
Current	BB+(stable)	Baa3(stable)	BBB-(stable)



●日本とトルコで13億ドル相当の肥料プラント、建設開始

18日、三菱グループは、トルコの建設会社であるギャップ・インシャート社と共同で、トルクメニスタンで約13億ドルの大型肥料プラントを受注したと発表。トルクメニスタンの国営化学公社トルクメンヘミヤが発注した肥料プラントで、設計・調達・建設を手がけ、カスピ海沿岸のガラボガスに建設。総工費13億ドルのうち、85%を国際協力銀行(JBIC)、残りをトルクメニスタン政府が調達。(8月19日付HD紙11面)

●高速鉄道の整備が新駅建設を後押し

トルコ国内に広がる高速鉄道路線が、駅の新設を後押ししており、21の新駅を通過する予定。政府は、高速鉄道の利用客数が、2016年までに7900万に急増すると見込んでおり、これら乗客数に見合うよう駅舎数を増やす計画。第一

段階として、アンカラ、エスキシェヒル、ビレジク、ボズオユック、サパンジャ、アリフィエ、パムツコバの駅を改築する予定。(8月19日付HD紙11面)

●7ヵ月間での道路通行料、2億2400万ドル

19日、高速道路総局(KGM)は、本年7ヵ月間において、第1、第2ポスプラス大橋及び有料道路の通行料として、合計2億2450万ドルの収入があったと発表。内訳として、第1、第2ポスプラス大橋の通行料収入が6200万ドル、トルコ国内の高速道路通行料収入が1億6260万ドル。延べ1億4000万以上の車両が通行。(8月20日付HD紙10面)

●トルコ政府、国際信用格付機関への批判を強める

ゼイベクチ経済大臣が、ムーディーズが大統領選挙後に2015年の総選挙が行われるまで政治的不透明が継続すると表明したこと等に対し批判を強めていることや、ブルト首相補佐官のS&Pがトルコの経済成長率を上方修正したにも関わらず、公表しなかったことに対する批判など、トルコ政府は、三大国際信用格付機関はトルコの成功を見落としており、特定の利益団体の関心に基づいて活動しているとの批判を強めている。(8月20日付HD紙10面)

●本年の銀行部門収益は昨年並みの予想

トルコ銀行組合は、本年の銀行部門の収益を昨年並みになると予想。昨年の銀行部門の純利益は、247億3000万リラ。一方、銀行監視機構(BDDK)は、本年上半期における銀行部門の純利益は、対前年比8.4%減の125億リラとしている。(8月20日付HD紙10面)

●失業率低下

トルコ統計庁が発表した本年5月期の失業率は、対前月比0.2ポイント低下の8.8%(男性:8.0%、女性:10.5%)。15~24歳グループを含む若年失業率は15.8%。失業者数は、255万1000人(4月期の失業者数は、257万9000人)。15歳以上の被雇用者数は2653万8000人。労働力人口は、2908万9000人、労働参加率は51.2%(男性:71.8%、女性:31.0%)。農業部門で労働者数は582万人、非農業部門での労働者数は、2071万8000人。被雇用者のうち、21.9%が農業、20.2%が工業、7.4%が建設業、50.5%がサービス業。(インターネット)

●直接投資28%増加

20日、経済省が発表した本年上半期のトルコへの直接投資は、対前年同期比28%増加の67億6000万ドル。サービス部門への直接投資が最も多く、23億ドル。次いで、製造業の19億ドル。EUからの直接投資が68.1%を占めており、投資額は36億ドル。(8月21日付HD紙10面)

●投資家、次期内閣を注視

エルドアン首相の後任として、ダーヴトオール外務大臣が有力と予想される中、投資家や専門家らは、新内閣の下でのトルコ経済安定の鍵となるババジャン副首相及びシムシェキ財務大臣の去就に注目。一説によると、ダーヴトオール外務大臣に近い関係者は、既にババジャン副首相を経済チームのトップに据え置く方向でロビー活動を開始。(8月21日付HD紙10面)

●SPKがBank Asyaのスクーク(イスラム債券)の発行を却下

14日、ボルサイスタンブル証券取引所はBank Asyaの所有権の不透明性を理由に同銀行の株式取引中止を発表したところであるが、今度は、資本市場委員会(SPK)が同銀行の1億4000万リラ相当のスクーク(イスラム債券)の発行要求を却下。(8月21日付HD紙10面)

●民間企業の長期対外債務が89億ドル増加

中央銀行の発表によると、本年6月時点での民間企業の長期対外債務は、昨年12月から89億ドル増加し、1665億ド

ルとなった。短期対外債務についても、33億ドル増加の437億ドル。長期対外債務のうち、58%がドル建て、34%がユーロ建て、6%がリラ建てとなっている。長期対外債務の37.1%に相当する618億ドルを銀行部門が抱えている。また、短期債務については、48%がドル建て、40%がユーロ建て、11.2%がリラ建てとなっている。(8月21日付HD紙10面)

●トルコ航空株上昇

19日に公表された本年第2四半期のトルコ航空株の純利益は、利用客増加及び為替レートの影響により、対前年同期比177%上昇の3億9820万リラ。同期間における収入は、61億4000万リラと前年同期の46億1000万を上回り、59億リラ程度とされていた予測をも上回った。同社の1月-7月期の旅客数は、15.2%増加の3100万人に達したものの、搭乗率は0.3%減少し78.9%とほぼ横ばい。(8月21日付HD紙11面)

治安

【PKK関連】

●トルコ南東部でPKK創設者の銅像が建てられる

(1)16日、トルコ南東部ディヤルバクル県リジェ地区に昨年作られた墓地にPKKの創設者の一人である、マフス・コルクマズ氏の銅像が建てられた。

1984年8月16日、PKKが初めてシイルト県のエルフ地区を攻撃した日を記念して銅像が立てられ、オープニングセレモニーには、HDP議員らも参加。MHPバフチェリ代表は、銅像はPKKの活動を支援するものであり、エルドアン首相は選挙のためにPKKを支援した証であるとしてこれを強く批判。(8月18日HD紙3面)

(2)18日、ディヤルバクル県庁は検事に銅像撤去を申し立て、これを受けて裁判所は撤去命令を下した。治安部隊が銅像を撤去する際に、反対するPKK構成員、住民等約250名と衝突し、抗議者1名が治安部隊の銃撃を受け死亡。衝突時、PKK構成員らはライフル、手製爆弾で治安部隊を攻撃した。治安部隊の車両、ヘリコプターにライフル銃の物とみられる弾痕が確認されている。(8月19日付HD紙インターネット版等)

(3)19日、抗議者の死亡事件を受け、ガラタサライ高校前に人権団体IHDが集まり、クルド人の人権尊重を訴えた。(8月20日付C紙6面)

●政府、PKK共に和平プロセスの結実を示唆

15日アタライ副首相は、報道陣に対し、「和平プロセスは、最も重要な部分にさしかかっている。現在全力を挙げて推進しており、今月中には形にする。」と語った。一方、15日イムラル島を訪れたHDP副党首3名はオジャラン首領の書簡を発表。オジャラン氏はこの中で、「30年間に及ぶ戦いは平和的な話し合いで解決される。これからはトルコの民主主義が理想論ではなく、現実論へと転換される。」と発言。(8月18日付HD紙1面等)

●トルコ政府PKK首領を安堵させる

15日、ハカン・フィダンMIT長官がイムラル島を訪問し、PKKオジャラン首領と面談していたことが判明。この大統領選挙後に実施された異例の面談は、オジャラン首領からの「エルドアン首相は大統領就任後も和平プロセスを推進するのか。」との質問に答えるためだと言われており、オジャラン首領はエルドアン首相自身が大統領就任後も和平プロセスを中心となって推進することを確信したと報じられている。なお、一部の報道では、フィダン長官は次期外務大臣の有力候補と言われている。(8月20日付HD紙

4面)

【テロ関係】

●「イスラム国(IS)」が日本人を人質に

IS(イスラム国:旧ISIL)が日本人ユカワ・ハルナ氏を誘拐。アレッポ近郊で誘拐された日本人は報道関係者、あるいは兵士だったなどの噂が流れ、情報が錯綜している。(8月19日付S紙10面)

【一般】

●シリア難民400名がキャンプへ

14日、ガーズィアンテップ県では県内の子供を含むシリア難民400名がバスでキャンプへ送られた。ガーズィアンテップ県ではシリア人が家主を殺害する事件が発生。この事件以降、住民がシリア難民を襲撃する事件等、住民によるシリア難民排斥運動が発生し、住民がシリア難民を刃物で刺す等の事件も発生し、これまでの警官隊との衝突等で住民50名が拘束されている。同県知事は今後、難民2000家族をキャンプに収容すると発表。また10月までに県内のイスラヒエ地区に新しいキャンプを建設し、25000家族を収容する計画であると発表。(8月15日付HD紙3面)

●ボンザイ(合成麻薬)は2011年からイスタンブールで蔓延

(1)イスタンブール県警の最新統計によると、ボンザイが急速に県内で拡散している。イスタンブール県警麻薬対策課は、2011年のボンザイ取扱件数は17件のみであったのに、2012年は3044件、2013年は8885件、2014年は上半期のみで3692件と急増していると発表。

検挙人員は2011年は200名、2012年は4597名、2013年は11558名、2014年は上半期のみで5026名であった。2011年はバクルキョイ、クチュクチェックメジェ、ペンディク市内でボンザイが使用されていたが、2012年には、ファーティヒ、ウスキュダル、バシヤクシェヒル、ベイオール市内にも広がった。2013年には、マルテベ、ギュンギョレン、ベイリクデュズ市内、2014年にはカドキョイ、バフチェリエヴレル市内にも拡散し、イスタンブール全土でボンザイ関係の取扱が拡大。

押収量は、2011年以降、ファーティヒ市内で94.4kg、バクルキョイで49.9kg、ウスキュダル市内で49.3kgであった。(8月15日付HD紙2面)

(2)トルコ統計庁は、2013年に18未満の未成年者48000人がボンザイを使用したと発表。2012年比では11%増加し、最も若い者では11歳の者が使用していた事例もある。(8月20日付C紙7面)

●イスタンブール県警察官が銀行強盗

5月6日、サルエル市内ゼケリヤキョイ地区に所在する銀行がけん銃を所持した覆面男に襲撃され、現金4万リラが強奪され、8月には同市タラビヤ地区の銀行が襲撃され、現金30万リラが強奪された。2件目の犯行の2日後、男は警察により検挙された。捜査の結果、男はサルエル警察署に勤務する警察官であることが判明。(8月18日付HD紙2面)

●イズミル県警等、県警警察官29名拘束

一連の不法盗聴捜査で、イズミール、イスタンブール、ヤロヴァ県警の警察官合計29名が拘束された。イズミル県警では情報課副課長も身柄を拘束された。今回の捜査では、2010年から2013年に行われた不法盗聴に対する嫌疑で、これに携わったとされる警察官の身柄が拘束された。イズミールの港湾局で発生した、ユルドゥルム元運輸相親族が絡む賄賂疑惑捜査との関連はないとされている。(8月20日付C紙7面)

●シリア人少年がトルコ人少年に性的いたずら

8月19日、ハタイ県イスケンデル市において、14歳シリア人少年が9歳トルコ人少年に性的いたずらをしていたことが発覚し、住民の反シリア難民感情が高まり、トルコ人住民がシリア人が営む同地商店等を襲撃する事態が発生。

(8月20日付C紙9面)

●イスタンブール県警元テロ対策課長に逮捕状

7月、イスタンブール県警元テロ対策課長オメル・キョセ氏は、不法盗聴容疑で、一旦身柄を拘束され、その後身柄の拘束を解かれていたが、「証拠隠滅・逃亡」のおそれが認められるとして、裁判所から逮捕状が発布された。20日、同課長は自らイスタンブール裁判所に出頭し、身柄を拘束された。(8月21日付C紙6面)

社会

●イスタンブールの人口

イスタンブールの2013年現在の人口は14,160,467人で、過去5年間で124万人増加。イスタンブール居住者は、トルコの全人口の18.4%を占め、10年後の2023年には、イスタンブールの人口は1650万人になると予想される。

(8月18日付H紙第11面)

●イスタンブールの地震発生率

ボアジチ大学地震観測所エルディック教授は、3万棟のビルに重大な損害が生じる程度の地震の発生率は今後1年の間で2~3%に上ると発表。同教授によれば、この数値は、東京やサンフランシスコと同等であり、高い発生率であるとのこと。(8月18日付H紙第5面)

●サマースクールで避難訓練を実施

アジア側ウムラーニエ市防災局は、同市で実施されているサマースクール参加者に対して、地震の発生時にどのような行動をとるべきか講義を行った。ウムラーニエ市長ハサン氏は、1999年8月17日に起こった地震を忘れることなく、今後活かさなければならぬと訴えた。(8月19日付HT紙第23面)

●トルコのガソリンは高い

エネルギー市場調整機構の発表によれば、アメリカにおけるガソリン販売価格は、1リットルあたり1.97リラであった。トルコにおける、7月のガソリン販売価格は1リットルあたり5.07リラであり、このうち58.19%が税金、製造コストが32.15%、元売りの粗利が9.66%となっている。また、トルコにおけるガソリンの課税前価格は、2.12リラであり、最も高額であるデンマーク(2.18リラ)に次いで高額。

(8月21日付HT紙第10面)

●90リラのラク、49.3リラが税金

19日に行われたトルコ国会における質疑で酒税等の詳細が明らかになった。1リットルあたりの販売価格8.40リラのビールには4.43リラの酒税が課されており、酒税収入の86.9%がビールである。

また、酒の消費量が最も多い地域は、マルマラ地方(イスタンブール県周辺)で、全体の20%を占め、最も消費量が少ない地域は、南アナトリア地方で、全体の4.7%。男女別の飲酒率は、男性が23%、女性が4%となっている。

(8月20日付HT紙第12面)

種別	販売価格 (1リットル)	酒税額
ビール	8.40 TL	4.43 TL
ウォッカ	80.00 TL	45.60 TL
ラク	90.00 TL	49.31 TL
ワイン	40.00 TL	9.63 TL
ジン	80.00 TL	45.60 TL
フルーツワイン	34.00 TL	8.72 TL
テキーラ	110.00 TL	56.63 TL
コニャック	170.00 TL	65.84 TL
リキュール	70.00 TL	42.14 TL
ウイスキー	120.00 TL	60.25 TL
ラム	110.00 TL	56.11 TL
スパークリングワイン	75.00 TL	35.25 TL

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

略語	正式名称	略語	正式名称
AFAD	首相府緊急災害事態対応総局	ÖSB	PKKの防衛隊
AKP	公正発展党（現与党）	OIB	首相府民営化管理庁
BDDK	銀行監督庁	PKK	クルディスタン労働党
BDP	平和民主主義党（クルド政党）	PYD	シリア民主主義連合党
BOT	建設・運営・譲渡方式	RP	福祉党
CHP	共和人民党（最大野党）	RTÜK	ラジオ・テレビ高等機構
DEP	民主党	SNC	シリア国民評議会
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	SPK	証券取引監査院
DHMI	国家航空局	SSM	防衛産業庁
DISK	先進労働組合連合	TBB	トルコ弁護士協会／トルコ銀行協会
DTK	民主主義社会評議会	TCDD	トルコ国鉄
DTP	民主社会党	TDHB	トルコ歯科医師会
DYP	正道党	TESK	トルコ商工業連合
EDAM	経済外交政策センター	THY	ターキッシュ・エアラインズ
EPDK	エネルギー市場監督庁	TİKKO	トルコ労働者・農民解放軍
HDP	人民民主党（クルド政党）	TMMOB	トルコ・エンジニア・建築会議連盟
HSYK	裁判官・検事高等委員会	TOKİ	トルコ集合住宅開発局
İDO	イスタンブール海上フェリー会社	TOMA	放水装甲車
İHH	人権・自由・人道支援団体	TPAO	トルコ石油公団
İKSV	イスタンブール文化芸術財団	TTB	トルコ医師会
İSO	イスタンブール産業会議所	TÜBİTAK	トルコ科学技術研究機構
işİD	イラク・レバントのイスラム国（アルカイダ系）	TÜİK	トルコ統計庁
İTO	イスタンブール商工会議所	TÜPRAS	トルコ石油精製会社
KCK	クルディスタン共同体同盟（PKK系）	TÜSİAD	トルコ産業・実業家協会
KESK	公務員労働組合連合	TÜYİD	トルコ投資家関係協会
KRG	北イラク政府	YÖK	トルコ高等教育評議会
MHP	民族主義者行動党（野党）	YSK	選挙高等委員会
MİT	国家諜報機関		

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		通信社	
Akşam	A	Economist	EC	Anadolu News Agency	AA
Cumhuriyet	C	Herald Tribune	IHE	Agence France Presse	AFP
Haberturk	HT	Hürriyet Daily News	HDN	Cihan News Agency	CA
Hürriyet	H	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M			Ihlas News Agency	IA
Posta	P			Interpress	IP
Radikal	R				
Sabah	S				
Taraf	T				
Vatan	V				
Zaman	Z				

在イスタンブール日本国総領事館

電話：0212-317-4600

FAX：0212-317-4604

E-Mail: istanbulweekly@it.mofa.go.jp

WEB: http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html

Facebook: <http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu>

- トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。
- 新たに配信希望される方、あるいは今後の配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。
istanbulweekly@it.mofa.go.jp